

令和4年度 第2回 エルシーブイ放送番組審議会

■開催日時 令和4年9月26日（月） 午前10時00分～午前11時30分

■場 所 エルシーブイ株式会社 会議室 及び リモート会議

■出席者 委員総数 5名

出席委員	市川	純章	委員
	河西	滋子	委員
	井上	淳哉	委員
	菊池	大介	委員
	杉本	研一	委員（書面出席）

放送事業者側 （9名）

深井	賀博	代表取締役社長
大野	弘信	専務取締役
八幡	聡	放送制作部長
小池	利幸	放送制作部 報道課長
佐野	銀次郎	放送制作部 制作課長
吉田	和晃	放送制作部 FM制作課長
早川	達朗	放送制作部 編成課長
井田	太郎	放送制作部 制作課
内藤	由里子	放送制作部 事務局

■議 事

1. 審議事項

【審議番組】 スワコエイトピークスミドルトライアスロン大会

<委員からの主な意見>

□評価意見

- ・記念すべき第1回の大会を映像記録として残すという企画意図は理解できた。
- ・大会の概要が分かりやすかった。
- ・遠景、近景、前後、横、地面すれすれから仰ぐ映像など多彩なアングルで、美しい景色や疾走する選手のスピード感が上手に表現されていた。諏訪の自然と大会を絡めた映像を収めるという番組構成が成功している。
- ・同じような映像で飽きることがないように工夫されており、事前のロケハンで撮影ポイントを吟味した努力が功を奏した。
- ・道路から陽炎が昇っているシーンは当日の気温の高さをさりげなく表現しており、抑えた演出が素晴らしかった。
- ・ナレーションを最小限に留め、現場音にBGMを乗せる手法が成功しており、番組のクオリティを高めているように感じた。
- ・美しい背景にさりげなく鳥の鳴き声をかぶせたシーンは技ありの演出だった。
- ・アスリートを見る感動としては、惹きつけるものがあった。
- ・競技中の選手へのインタビューは理解を得るのが困難と思われる中、笑顔で答えてくれる選手の声を複数紹介しており、好感度がアップした。
- ・事務局長の挨拶を大切に扱い、内容をカバーする映像をかぶせたのはとても良かった。
- ・地元の人にも、すごい事をやっていると伝わったと思う。
- ・大会に関心をもつ人には、刺さる番組だ。
- ・YouTube等でも見られれば、来年出場を検討する人などの注目が集まる映像だと思う。

□指摘意見

- ・諏訪で開催されたというニュースと、競技の映像のどちらに比重を置いているのか。
- ・ニュース的なら長すぎる。レース展開を追うでもなく、時系列で場面が並んでいるだけだった。
- ・企画意図に対して、中途半端な立ち位置の構成だった。
- ・地元で初の大会の記録として、もう少し深掘りした方が良かった。
- ・大会の目的や背景等をもっと伝えてほしい。地元の人達が頑張った意味を強調してもらえれば、視聴者にも、大会関係者にも喜んでもらえる番組になったのでは。
- ・事務局長の挨拶で大会の経済効果が語られていたが、番組で一切触れられていない点に疑問を持った。
- ・関係者の思いに共感してアクションする人が増えるような番組にしてもらえれば。事実を淡々と伝えるだけではなく、メッセージを持ってもいい。

- ・諏訪湖がきれいになったから泳げるようになったと説明があったが、どれ位きれいになったから泳げると判断したのか、泳げる基準があるのか分からなかった。
- ・諏訪湖をきれいにするための運動は、大会の主催者の人たちがしていたのか、誰がどのように諏訪湖をきれいにしていくのか分からなかった。
- ・競技の細かい説明があれば、より分かりやすかった。
- ・コース紹介の地図が見にくかった。
- ・今、どのあたりを映しているか地図で説明があっても良かった。
- ・参加者数や優勝者の名前、出身地、タイム、完走率などの公式記録情報が洩れている。
- ・インタビューのテロップが一部入っていたが、必要だったのか。
- ・ドローンを使った方が、大会のスケール感が伝わったのではないか。
- ・「諏訪のチームなので絶対に表彰台に乗りたい」という人のインタビューがあったので、こういう人に密着すると、視聴者が自分事として捉えられると思った。
- ・記録映像ということであれば、富士見橋のイベントだけでなく、岡谷のswandome開催された協賛事業のeスポーツ大会の映像も入れてほしかった。

そのほか「コミュニティチャンネル番組編成」について

- ・データを数値化する事は良い。
- ・コミチャンで放送する番組の50%以上が自主制作である事がわかった。